

●バンクーバーの自転車インフラ整備について

団員 清水 尚美

バンクーバーはカナダ西部のブリティッシュ・コロンビア州の中心都市で面積は114.97k m²で松山市429.35k m²の約4分の1で、人口は662,248人で人口密度は松山市の約5倍の都市となります。

バンクーバーは一人当たりの温室効果ガス排出量が最も少ない都市と言われています。毎年大規模な山火事災害に見舞われていることから市民の環境保護への意識は高く、様々な温暖化対策が取られています。その一環として2007年よりGreenest City Action Plan政策として環境問題の改善に取り組み、環境にやさしい移動手段の選択として徒歩や自転車を推奨しています。

すでに、1992年には自転車道計画が策定され以降5年ごとに計画改定がなされていましたが自転車人口は伸び悩んでいました。2018年の自転車交通分担率は約7%に留まっていました。

そこで新たにTransportation 2040の政策で安全性の高い自転車専用道路の導入に取り組みました。環境にやさしく健康増進に寄与する徒歩や自転車など身体を動かす交通手段を中心に、2040年までに、徒歩・自転車、公共交通の交通分担率の合計を2/3に引き上げる政策です。

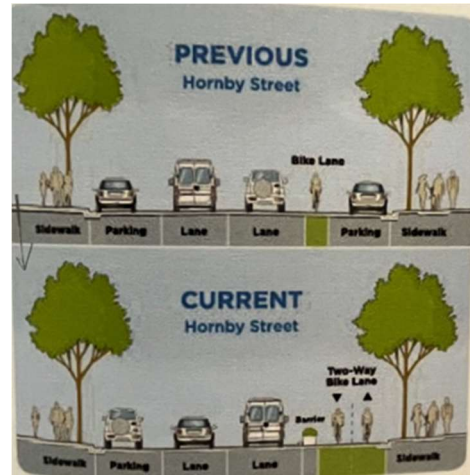
自転車走行環境デザインとしてバンクーバーでは自転車走行区間の種類として、自転車レーン、分離された自転車道、自転車専用道路、車道混在、生活道路内の自転車歩行空間があります。



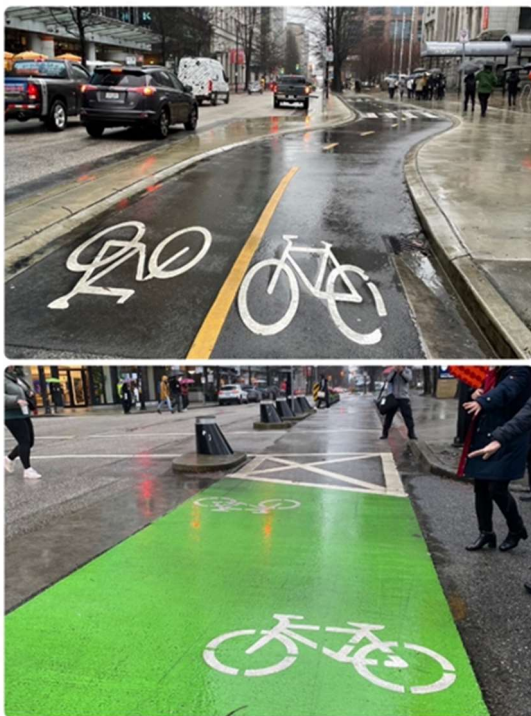
(鈴木さんからの説明)

今回の視察では、株式会社バリュアブルリンクコンサルティングの鈴木美和さんに説明を受けました。

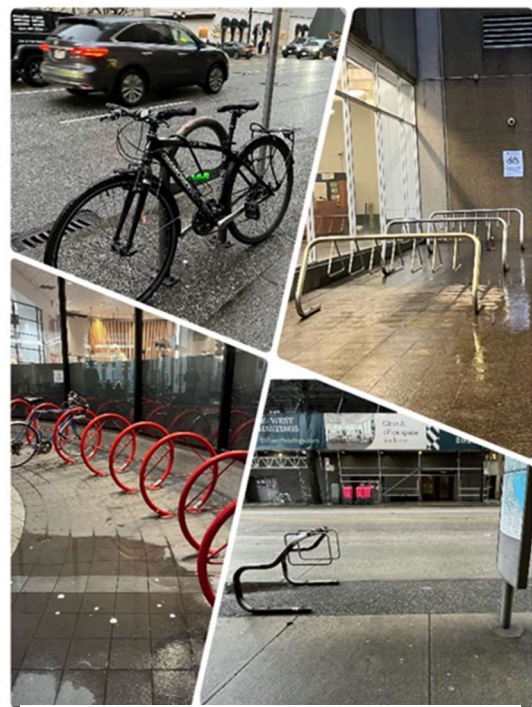
鈴木さんの説明によりますと以前の自転車道は車道の中に混在していたそうですが、自転車スキルのない方が車道走行に不安を感じていたため、車道にプランターを置いて自転車が安心して走行できるようになったと伺いました。



(自転車専用道路の昔と今)



(自転車専用レーン)



(簡易な自転車止め)

自転車はロードバイクが主流で雨が降ってもレインコートを着て自転車専用レーンを走行されていました。日本のようなママチャリではありませんでした。

自転車専用レーンの幅は十分確保され、走行も右と左が分かるように黄色の線が引かれていましたし、自転車専用道路の入り口は緑色の塗装で誰にでも、

わかるような工夫がしてありました。

歩いてみて驚いたことは、放置自転車を見かけないことでした。鈴木さんに伺うと有料の駐輪場は無く、簡易な自転車止めにロックをかけるのみとのことでした。自転車止めの形はそれぞれで、町のいたるところに設置されていました。



(無人で走行するスカイトレイン)

自転車インフラの整備として近距離移動は専用道路を使い、遠距離移動の際はスカイトレインやバスに自転車を乗せられるようになっていました。

今回、無人で走行するスカイトレインに乗車し、バンクーバーシティセンターからランスタウン駅まで移動しました。

スカイトレイン内には自転車を持ち込み固定できる場所が設置されていました。生活の場に自転車が身近なものであると感じました。

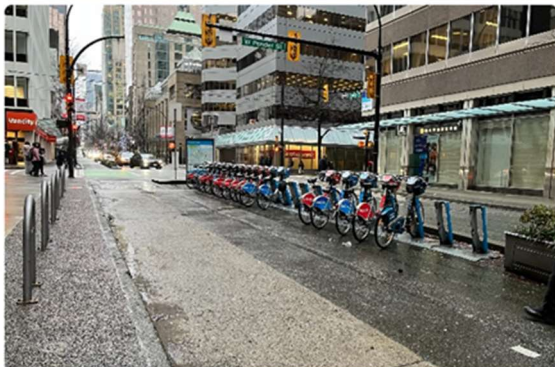


(バスに自転車を乗せられる設備)

また、バスはフロント部分に自転車を2台乗せられるような設備が施されていました。

2016年にはバンクーバーでシェアサイクル Mobi が導入されていたので、今回シェアサイクルが設置されていると

ところを見学しました。自転車専用道路にプランターを置いた先のスペースにシェアサイクルが設置されていました。店舗に自転車を借りに行かなくても良い自転車レンタルサービスのようでした。



(シェアバイク)

設置場所には自転車道がわかる地図もあり、すでに数台利用されていました。利用後は借りた場所に返すのではなく、シェアサイクル設置場所であれば、どこへでも返せるようになっていました。

現在、2,500台のEーバイクと250か所の駐輪場がダウンタウン周辺に整備されているそうです。

ダウンタウンの自転車専用道路の設置には、市民への情報提供と教育が重要ということで、数多くのインフォ

メーションセッションを開催したそうです。市民の意見や動向を調査し、それらの情報は、詳細なタイムテーブルを計画し、段階的に現実化してこられました。

特にダウンタウンの専用道路設置には長期間かかり、工事期間中は多くの交通渋滞を引き起こし、市民の反応も賛否両論で不満の声も多く上がり、設置後も一方通行や車幅の縮小などで自動車移動が複雑になったようです。

しかし、グリーンなまちづくりの必然性は多くの市民が理解をし、自分たちが率先して取り組むことで世界をリードしていくという使命感が高いように思うと鈴木さんは話しておられました。

今回の視察で多くの学びを得ることができました。松山市も安心、安全に暮らしやすい町をつくるために放置自転車の問題や自転車インフラ整備などへの課題を考えていく必要があると実感しました。